

林野労組九州

発行所
熊本市西区京町本丁2の7
全国林野関連労働組合
九州地方本部
電話 096-354-1150

発行者 山口隆志
責任者 10日
発行日 1部20円
定価 組合員の購読料は
組合費の中に含む

緑を育て、守る、 林野労組

国有林野事業の特殊性・職場実態を 踏まえた要求の実現を求める ～人事院九州事務局交渉～



人事院九州事務局へ要求書を提出

九州地本では、10月19日に人事院九州事務局交渉を実施しました。感染症対策のため交渉態勢を含めた実施全般について検討していましたが、例年どおり実施することに至りました。今回の交渉でも各ブロックより代表者4名が参加、地本三役と前川地本執行委員を含め、総勢8名で交渉を実施。ブロック参加者は、北部ブロック・橋本（長崎分会）、熊本ブロック・小薄（熊本南部分会）、宮崎ブロック・釜（技術センター分会）、鹿児島ブロック・松永（北薩分会）。

交渉の冒頭、甲斐地本委員長は「今回の交渉内容の多くは、その根底には国有林は単なる行政官庁としてのみならず、現場官庁としての特殊性の反映である。森林整備、国有財産管理、民有林への技術的支援、さらには近年多発している災害復旧など多くの特殊な業務がある。そういった現実実態を踏まえた要求であるので、誠意ある回答を求めたい」と挨拶し、人事院九州事務局金田総務課長に要求書を手交しました。

内容は、①級別定数については、現状を踏まえた職務評価の適正化を図るとともに、2～6級の定数を維持することとあわせて、昇格基準の緩和を図ること②多数の一般職員が役付けポストの業務に従事している実態にあり、その特殊性に基づき、俸給月額につき適正な調整額表を定めること③森林官（3G）については、業務は多岐にわたる困難及び責任の度合いが増していることから級別標準職務表における4G、複雑、困難及び責任の度が同程度の職務に位置づけること④行IIについては、級構成の簡素化や号級較差額の改善を図ること。また、部下数制限事項のさらなる弾力的運用を図ること⑤特殊勤務手当については、国有林の現場業務における特殊性を踏まえ、支給要件の見直しを行うとともに適用業務の拡充を図ること⑥雇用と年金の接続について、希望どおりの再任用の実現と給与制度の改善を図ること。あわせて、支給対象とされていない諸手当につ

いて支給対象とすること⑦通勤手当について、社会状況に応じた自動車使用にかかる燃料代を反映すること、また、公共交通機関使用通勤者の限度額を引き上げるなど、生活実態を踏まえた支給額の引き上げを図ること等を求めました。

これに対し人事院は、①林野庁や職員団体の意見を聞きながら検討が進められている。強い要望があったことを本院へ伝える②実態があることは承知した。要望を本院へ伝える③現場の職務実態は以前より聞き伺っている。調整額表の要望があったことを本院へ伝えていく④制度上の難しさがあるのは事実だが、

本院へ伝えていく⑤以前より強い要望があることは本院へ伝えている。一會移行時に一定の整理が行われているが、今後も引き続き関係者から現場実態を伺っていききたい。また、依然として強い要望があることは本院へ伝えていく⑥雇用と年金の接続は社会保障等でも重要なものと理解している。人事院としての役割を果たしていきたい。定年の段階的引上げ中は、現行の再任用制度を存置するとともに、フルタイム再任用の拡大の取組を進めていく必要があると考えている。⑦実態を踏まえた強い要望があったことを本院へ伝えていく等の回答がありました。

その後、各ブロック代表者が発言、「再任用へ住居手当の支給」「地域手当の対象地域拡大」「通勤手当の増額」「山上等作業手当の拡充と増額」「看護休暇の充実」等の現場実態を踏まえた声が出されました。最後に、甲斐地本委員長より「国家公務員の職場は、特に本省等で離職率が上がっている。理由は様々だと思うが、きちんとした労働条件が必要。そういう意味では人事院の役割は非常に大きい。今後も人事院としての役割を十分に果たしていくよう要望する。」と発言し、要求内容を確実に本院へ伝えることを確認して交渉を終了しました。

交渉を取り組むこと。○「樹木採取権制度」については、本部交渉と連動させ、業務負担を増大させないこと等を求めて取組を進めること。

2021年度予算確保に向け、関係団体等、関係政党、地元選出国會議員への要請行動等に取組を進めること。

「要求項目の前向きな改善に向けて」 地本指令3号を发出

地本は、本部指令第2号の发出を受け、地本指令第3号を发出しました。

内容は、秋季年末闘争であり、2020年度事業計画、2021事業予定、2021春闘など、組合員の労働条件・生活・職場環境などを前向きに改善させるための重要な取組です。地本・分会は2020年秋季年末闘争の組織態勢確立を行い、国有林野事業の推進をはじめ、以下の行動を展開します。

1 森林・林業・木材関連産業の基本政策の推進に向けた取組
○「基本計画」の着実な推進
「森林経営管理法」等に係る附帯決議を踏まえた対策の具体化

匠の腕

『今月のクワガタ』
(撮影者：塩崎暢彦・都城分会)



「匠の一言」
機関紙みなみかぜの人気コーナー？（ゴトウヒラタクワガタ）

将棋

将棋には「詰んだ」と思っても、手順をひとつ間違えると詰まない。「王手」が「追う手」となる▼王より飛車をかわいがる初心者レベルでは、互いに入玉することも多くある。プロ棋士は負けを覚悟した時相手の間違いを期待して指し続けることはせず、一手違いの形にして投了する。「敗者の美学」をもっている▼先に投票が行われた米大統領選は、民主党のバイデン氏が勝利を確実にし、王手となった。だが、トランプ氏は負けを認めそうにもない。諦めない姿勢は大事だが、自国が定めた制度を否定するようでは何のための民主主義なのか。過去に法廷での闘争となった歴史が繰り返されてしまうのか▼将棋の名言に「銀が泣いている」がある。自分の負け将棋で「銀」を生かせず自分を責めた言葉とされている。この言葉には「美学」がある。最後は美しい将棋としてほしい。

各分会での精力的な取組

組織拡大に取り組む

～連合熊本第26回地方委員会～



各単組から52名が参加

委員会冒頭に令和2年7月豪雨災害に被災された方のご冥福を祈り会場内全員で黙祷を捧げました。

委員会冒頭に友田会長より「新型コロナウイルス感染症対策」及び「自然災害対策」に係る課題に対する政策・制度の「要求と提言」について作業部会を設置し、取りまとめて10月26日熊本県へ申入れを予定しています」とあいさつを受けました。

から衆議院選挙に向けての決意表明がありました。執行部より「2020年度活動報告及び会計報告、会計監査報告」、「2020～2021年度運動方針(補強案)及び2021年度予算(案)」など提案がありました。質疑では、補強案「連合組織拡大プラン2030に向けた態勢強化と戦略の構築について」、最後に友田会長の団結がんばるで閉会しました。

研修生を労う 森の収穫研修生との意見交換会

九州熊本では10月5日、九州森林労連会館において、2週間に亘って行われる「森の収穫研修」に参加している研修生との意見交換会を実施しました。会には、採用から3年目となる研修生と聴講生の皆さん、局分会執行部、地本青年女性委員会・田畑事務局長、地本執行部が参加しました。



あいさつをする木下さん(大分会)

今意見交換会も、新型コロナウイルス感染症拡大を防止するため、マスク着用・消毒薬準備やソーシャルディスタンスとして十分座席間隔を空けるなど、感染防止対策徹底を行い実施しました。

冒頭、前川地本組織部長のあいさつで始まり、甲斐執行委員長が「2週に亘る研修のご苦労を労いたい。本日は地本執行部だけでなく局分会からも参加し



「私もスコップで奏でます月」

東 泰晟さん(佐賀分会)

今回佐賀分会から紹介させていただいたのは、今年度採用された期待の新人「東泰晟(ひがし たいせい)」さんです。東さんは熊本県熊本市出身で、熊本県立大学では黄砂やPM2.5などの大気に関係した研究をしていました。大学卒業後に佐賀森林管理署

採用となり、組合加入後半生が過ぎました。仕事は業務グループの土木・森林育成を担当しており、森林整備官の指導の下、日々一生懸命取り組んでいます。趣味は映画鑑賞で、いろいろな映画を観ています。最近面白かった映画を聞いてみる

と、「劇場版鬼滅の刃 無限列車編」のようなアニメ映画から、「TENET」・「テネット」のような硬派なSFアクションまで興味を持った映画は積極的に鑑賞しています。また、水泳が得意で、高校以降はあまり泳ぐ機会に恵まられなかったのですが、その時になったら、その水泳スキルをいかんなく発揮してもらえると期待しています。水泳のようなアウトドアな趣味から室内まで幅広い趣味をもつ、期待の新人東泰晟さんの今後の活躍から目が離せません!!現場からは以上です。(春田通信員)

戦争の恐ろしさが薄れている時代だからこそ

「川畑通信委員・鹿児島分会」 9月19日に九州労働金庫鹿児島支店にて9.18不戦を誓う日の集いが開催され「満州事変を問い直す」というテーマで講演が行われました。



9.18不戦を誓う日の集会

講演では、九州大学大学院法学研究院 協力研究員の後藤 啓倫(ごとう ひろみち)氏から満州事変の起こった原因や経緯、その後の歴史にもたらした影響などをお話していただきました。

「存じの方は少ないと思いますが(筆者も知りませんでした)、9月18日は満州事変の発端となった「柳条湖事件」が発生した日です。奉天近郊の柳条湖付近で日本が所有する南満州鉄道が爆破された事件で、日本が太平洋戦争で敗戦への道を突き進んでいく引き金となりました。

この事件は日本軍の自作自演で、中国軍によって起こされたことと発表することで中国侵略を展開拡大するための口実であり軍部の暴走であったと

自国の利益のために手段を選ばない自己保身的な考えであり、二度と同じことを繰り返してはいけなく強く思いました。今年、敗戦(1945年8月15日)から75年の節目になります、時代も移り変わり戦争経験者の方々も少なくなりました。

このように戦争の恐ろしさが薄れている時代だからこそ私たち一人ひとりが平和に対して意識をもち活動していかなければいけないと思います。

来年の開催に先駆けて！ 第26回連合菊池阿蘇地協 列島クリーンキャンペーン



参加者全員で

【後藤通信委員・熊本分会】 秋晴れの10月24日、阿蘇深葉国有林の「連合の森」において第26回連合菊池阿蘇地域協議会主催による列島クリーンキャンペーンが開催されました。この取組は、例年、同地協が熊本森林管理署と分収造林契約を結んでいる同森内において、自然環境保全活動の一環で森林整備事業として企画しているもの。

はじめに、溝越熊本森林管理署次長は「植栽されているクヌギ、ケヤキ、カエデ等も順調に生育しており、連合の活動が次世代に繋がるようにご期待申し上げます。」とあいさつ。今回は、新型コロナウイルス感染症拡大防止を考慮し、同地協幹事を中心としたメンバー構成で熊本署職員を含む総勢19名での開催となり、規模を縮小したイベントとなりましたが、来年の取組に先駆けて林内の歩道等の修繕を要する箇所点検や、造林木の生長状況を確認しながら林内の散策を楽しみ、参加者同士が程よい汗をかき良い機会となりました。



林内を確認中です

当面の活動

- 11月4日 地本執行委員会
- 11日 林協会拡大幹事会
- 18日 地本執行委員会
- 26日 地本要請行動 (福岡市)
- 12月2日 地本執行委員会
- 11日 森林労連単産交流学習会(熊本市)
- 22日 地本団体交渉

記事を募集しています!!

分会で開催した様々なイベントや会議、地域の集会等の記事を募集していますので、地本のメールアドレスへ投稿をお願いします。E-mail sinrin14-no7@clock.ocn.ne.jp (担当・教宣担当)